平成30年度～令和2年度　学力フォローアップ校事業指定　北広島町立壬生小学校　研究のまとめ　リーフレット

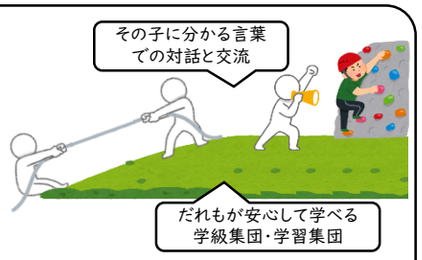
広島県「学力フォローアップ校事業」の趣旨

児童の「主体的な学び」を促進し，学力の向上を図るため，小学校低学年段階からの学習のつまずき等を把握し，解消する指導方法等に係る実践的な研究を進め，その成果を検証，普及する。

研究の経緯

当初の実態

- 学習規律，生活規律の乱れ
- 生徒指導上の諸問題
- 広がる学力差，学習意欲の低下



1年目　ICT活用　実態把握

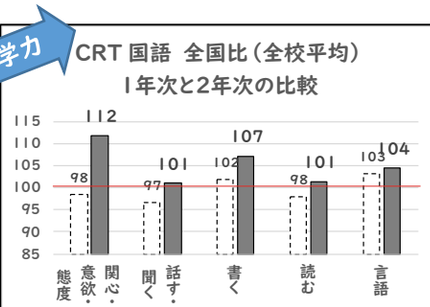
2年目　動機付ける　読む・書く

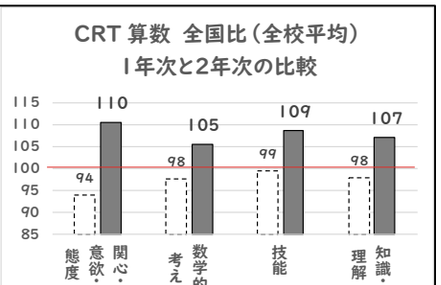
3年目　授業のUD化　家庭学習

専門機関との連携

気になるあの子のおはようからさよならまでをきめ細かくコーディネート

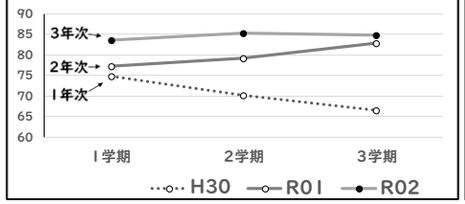
学力





意欲

学習意欲に関する児童質問紙
肯定度合（全校平均）の推移
1年次，2年次，3年次の比較



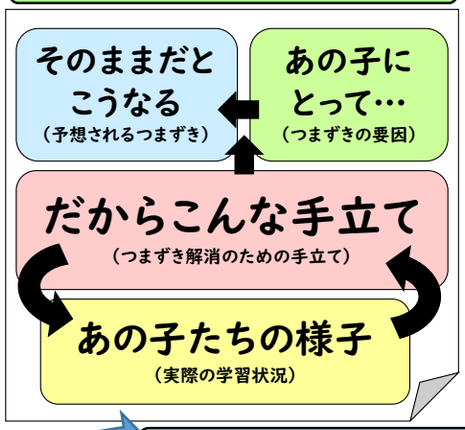
態度

「静と動」を意識し，規律を守った学習，教室移動，集合，整列，掃除等が当たり前の学校となった。

保護者の声

○先生方へ。
お世話になっております。いつも丁寧な指導をして頂き本当にありがとうございます。そして子どもが理解できていないことを「分からない」と素直に言えること、難しいことを前向きに行動できる環境をつくって頂いていることに心から感謝しております。
今後とも、どうかよろしくお願い致します。

つまずき解消の考え方



学びの基盤づくり　～音読・10の補数・九九の定着～

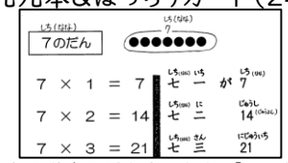
「青本」暗唱チャレンジ（全校）

児童に暗唱させたい名文30作品を読みやすくまとめた「青本」を作り，全児童に配付した。
児童は，学校でも家でも一生懸命覚え，休憩時間に職員室で検定を受けている。
「読む力」や「粘り強く努力する力」が鍛えられている。

10づくりトランプ（1年）

トランプ遊びを10の補数の定着につなげた。
例：「ぶたのしっぽ」（1～10のカード）
場の一番上のカードとたして10になるカードを出したら，場のカード全てをとる。
10のカードもアウト。（10は端によける。）
手持ちカードからは選んで出せる。

九九本＆ばっちりカード（2年）



九九の従来の唱え方に加え，「4→よん」「7→なな」など，言いやすい読み方のふりがなを付し，自分に合った唱え方を選べるようにした。
また，間違いを唱えることがないように，式と答えが同時に見えるように，配置した。視覚優位の児童が，式と答えをひとまとまりに見ることができ，正しく覚えることができた。
自分がよく間違える九九をチェックできるようにし，的を絞って練習できるようにした。

授業のユニバーサルデザイン化

「はひふへほ」から「あいうえお」の姿へ

壬生小学校　ユニバーサルデザイン化授業モデル

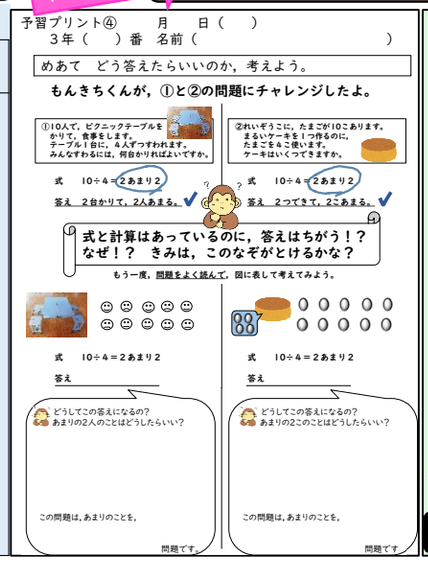
形態	学習段階	めざす子どもの姿	←←←
全体↓小集団↓個↓全体↓個	既習・既有	うん，わかる。できる。	教材のしかけ
	ズレ・妨げ課題（問い）の生み出し	ええ，ちがう。おかしい。どうするん。	①選択肢
	解決の見通し活動の見通し	お，もしかして。たぶん。やるぞ！オー！	②かくす
	教科の見方・考え方の共有	おお！できた。わかった。おしえて。おしえたい。おもしろい。	③間違える　など
	練習	おお，わかる。できる。	↓
	まとめ	あぁ，たしかに。なるほど。	UD化の三要素
	関連付け・汎化	あ！それなら	・焦点化（シンプル） ・視覚化（ビジュアル） ・共有化（シェア）
	振り返り	いいね。いえでも，やってみる。	←←←

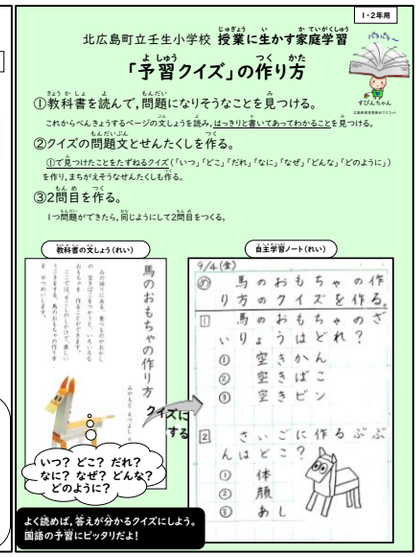
これまでの授業

気になるあの子の姿	学習段階	形態
ふーん。	問題提示	全体↓個↓小集団↓全体↓個
へ？なにをするん。なんでするん。	課題把握	
ほとんどわからん。	自力解決	
ボーっとしてきた。	練り上げ	
は？知らんがな。はぁ，そうですか。	まとめ	
ハ～，できん。	練習	
ひー，もうやだ。やりたくない。	振り返り	

授業に生かす家庭学習

「やってよかった」「やってててよかった」

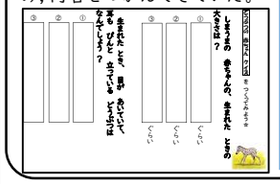




第1学年　国語科　くらべてよもう「どうぶつの赤ちゃん」　ライオンとシマウマの生まれたばかりの様子を，比べながら読む。

家庭学習　予習クイズ作り

1年生は，問題文に合う選択肢を考えて作った。教科書を読まないと作れないので，家庭学習で，しっかりと本文を読み，内容をつかんできていた。

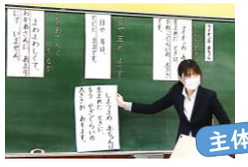


本時

音読
「生まれたばかりの様子が書かれているところだけを読みましょう。」
どこに書いてあるかを考えながら読ませる。

クイズの出し合い
作ってきたクイズを友達と出し合う。
ペアでの活動の仕方は，初めにモデルを示す。

ライオンの生まれたばかりの様子は，全体でたしかめる。



「シマウマの文がばらばらになって，どうくらべたらよいか分からなくなりました。ここかな？」「ちがう！ちがう！」

主体的

5つの文から3つを選ぶ。

板書と同じ形のワークシート。貼れるシートで，比べ読みに専念できるしかけ。

対話的

ペアトークで課題解決

本文の記述を写真や動作化で確かめ，自分の言葉で表現させる。

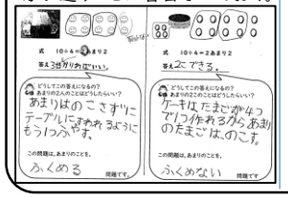
深い

シマウマの赤ちゃんがヤギくらいの大きさでびっくりしました。
ライオンの赤ちゃんが思ったよりも小さかったです。
また，くらべて読みたい。次時へつなぐ。

第3学年　算数科　「あまりのあるわり算」　商や余りの意味に着目し，問題に応じて商や余りを処理する。

家庭学習　予習ワークシート

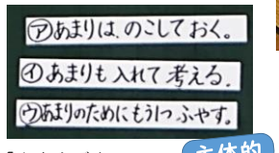
教科書より数値を易しくした問題を2つ並べることで，問題によって商や余りの処理の仕方が違うことに着目させておく。



本時

「これは，どちらの図ですか。」
「そこまでは同じです。」
「そのあとがちがいます。」
（図を出すと）「②の図です。」
「①でもいいのでは？」
「だめです。それでは，あまりの人がすわれません。」

「あまりをどうする問題か，みなさんが書いたものを書き出しましたが，たくさんありすぎて，どちらの問題のことか分からなくなりました。」



「大丈夫です。ぼくたちが分けてあげます。」

主体的

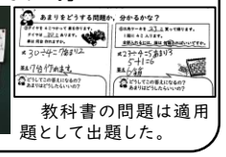
あまりをどうする問題かが書いてある付箋シートを，どちらの問題のことかを考えて分ける活動。
自分の考えを書けない児童も参加できるしかけ。

対話的

同じシートを分けた友達とのペアトーク

違うシートを分けた友達とのペアトーク

全体の話し合いでは，家庭学習での誤答も取り上げ，子どもの言葉で語らせた。
「それだとあまりの人が座れなくてかわいそう。」
「あまりの卵2つじゃ，味が薄いケーキしかできない。」



深い

どう答えるかは，問題をよく読んで考えないといけないと思いました。

教科書の問題は適用題として出題した。